

物流博物館

NEWS VOL.9

2006年8月25日発行



ピン包み

特集

ふろしき



ホ包み



インスタントバッグ



バスケット包み



ふろしきトート



すいか包み

ふろしきは一枚の四角い布ですが運ぶ道具になります。

物流博物館では、2001年度から運ぶ道具としてのふろしきを小学校社会科見学で訪れる子どもたちに紹介しており、昨年から大人の団体見学向けにもふろしき講習をはじめました。結び方ひとつでさまざまなふろしきバッグになり、ピンや丸いものも包んで運ぶことができます。また、使わないときには小さく折りたたむことができるため、携帯するにも便利です。繰り返し使えて環境にもやさしいふろしきを見直してみませんか。



ふろしきの歴史・語源

☆古代の「つつみ」

風呂敷は一枚の四角い布ですが、包むことにより、まもる・まとめる・しまうという機能があり、また、運ぶ道具になります。正倉院には奈良時代のものが残されており、伎楽面や装束を包み保管していました。奈良時代～平安時代には「つつみ」や「ころもつつみ」という名称があり、平安時代末以後は「平包み」と呼ばれました。「扇面法華経」の下絵には、装束の入った布包みを頭に載せて運ぶ女性の姿が描かれています。



☆「ふろしき」の名前はいつから？

「風呂敷」の語は江戸時代の初めに登場します。元和2(1616)年に亡くなった徳川家康の遺品目録には「こくら木綿風呂敷」があります。『貞丈雑記』などの江戸時代の書物によると、「風呂敷」はもとは風呂に敷いた布で、その布で衣服を包んだり、また、風呂の敷物が物を包む布と似ていたことから、次第に包み布のことをみな風呂敷と呼ぶようになったと記されています。



装束の入った包みを頭にのせて運ぶ女性

☆ふろしきを使わなくなった時代

昭和40年代、各デパートでは紙製のショッピングバッグを配布するサービスを開始、この角底紙袋は外出時に持ち歩くなど消費者に再利用され、同じ頃、スーパーではレジ袋が使われるようになりました。塩化ビニール加工の布製手提げ袋やナイロンバッグなど新素材を利用したさまざまな袋物・鞆類が登場し、生活様式の洋風化が進むにつれ、ファッション性の高いバッグが普及しました。また、小型自動車や段ボール箱の普及により、大きな風呂敷包みを運ぶことが少なくなり、日常生活で風呂敷を使うことがだんだん少なくなっていったのです。



スキー用具をありあわせの唐草の風呂敷に包んで、会社から直接スキー場に向かう。昭和51年 竹村昭彦氏撮影

☆現在のふろしき

現在、街中で風呂敷包みを持つ人を見かけることはめったになく、運搬具としての風呂敷は姿を消したようですが、近年、風呂敷は環境の面から注目されるようになりました。やがてはゴミになってしまうレジ袋※や紙袋に比べ、繰り返し使うことができ、不要の際には小さく折りたたみ、包むものを選ばない風呂敷は、環境への負担が少ないという視点から見直されています。※1年間に1人あたり約300枚のレジ袋をもらっているという試算があります。(平成14年・日本ポリオレフィンフィルム工業組合)

唐草の風呂敷を背負った若者の写真(右上)は、風呂敷の老舗宮井株式会社に勤める竹村昭彦氏が昭和47年～57(1972～1982)年の間に、街中で風呂敷を持つ人を撮影した約5000枚の写真の一枚です。今となっては貴重な風呂敷の記録写真です。

ミニ展示「運ぶ道具としてのふろしき」では、体験コーナーのほか、風呂敷の歴史、竹村昭彦氏撮影写真10点を紹介しています。(参考文献 竹村昭彦著『風呂敷』日貿出版社)

2006年度のイベントカレンダー

映画上映会

通年

「あ」から始まる産業映画試写会
4月22日、5月27日、6月24日、7月23日、
8月27日、9月24日、10月29日、
11月26日、12月24日/14時～
産業考古学会映像記録分科会及び東京産業考古学会と共催で行います。産業を記録した貴重な映像は膨大な数が残されています。これらの産業映画をあいさつお願に上映する試みです。

ロジスティクスセミナー

2月

2月(日程未定)
日本通運と共催で物流業界を紹介します。
対象：大学生

段ボール工作教室

8月

8月2,6,8,9,13,20日
各日10時/13時 各回定員3組
ダンボールを使って貨物を運ぶ機関車を作ります。対象：幼児～小学生

ふろしき講座

10月

10月(日程未定)14時～16時
ふろしきバッグをはじめ、ふろしきの楽しい使い方を伝授

美術品の梱包・入門(陶器)編

8月

8月17,18日 各日10時/14時
講師：日本通運美術品事業部 松木弘先生
美術品を安全に運ぶための梱包方法を教わります。

古文書講座

4月

10月

11月

4月1,15日、10月7,5日、11月4,18日
甲斐国天保騒動関係文書の中から郡内一揆の中心人物が逃亡の際に記した旅日記を読んでいます。

ごてんやまファミリーフェスタ

10月

10月21日13時半～16時
品川区立御殿山小学校および児童館が主催する御殿山地区の親子祭りに参加

<博物館の仕事紹介コーナー> 一枚の写真が教えてくれたこと



古い写真を見ていると、よい写真なのに詳しい情報がないために困ってしまうことがよくあります。こういう場合、「できることなら写真に写っている人がしゃべってくれたらなあ」と思うことがよくありますが、ごくまれに、それが現実になることがあります。

ここに掲載した写真は、そんな館蔵写真の1枚です。駅頭でのワラ包装の貨物の荷役の写真で、昭和30年代初め頃に沼津駅で撮られたことはわかっていましたが、ワラ荷造りの貨物の中身は陶磁器だろうとは推測されたものの、それ以上のことはわかりません。

ところが、先日、沼津市の地元新聞にこの写真が掲載されたことがきっかけとなって、なんと写真に写っている方が名乗りを上げてくださるという出来

事がありました。きっかけを作ってくくださったのは、この写真についてご相談していた沼津市内の老舗陶器店「伊勢う」のご主人須磨さんで、新聞社に話をつないでくださったのです。

名乗り出ただいたのは、写真に写っている4人の人物のうち、右端の久土さんと左から2番目の勝亦さん。それから、お二人のお仲間の西山さんもご連絡をくださいました。3人の方は荷馬車を引く「馬力」の仕事を若い頃にしておられたとのこと。先日沼津に赴き、皆さんから詳しいお話を伺うことができました。

お話によると、沼津には当時7つの馬力の組があり、お三方が一番大きな木所組（きどころぐみ）に属していたそうです。木所組は日通沼津支店の専属で、「日通馬力」と呼ばれ、車扱貨物（貨切の貨車で運ぶ貨物）の集配に従事していたといえます。この写真が写された場所は、おそらく沼津駅の14番線にあった荷役ホームだろうとのこと。

さて、問題の荷物の中身ですが、三人の方の証言により、「汽車土瓶」であることがわかりました。「汽車土瓶」は駅弁とともに売られていたお茶の容器です（写真参照）。当時、久土さんたちは「チャビン」と呼んでいたそうで、納入していたのは有名な沼津市内の老舗お井当会社の桃中軒。年に3回位、貨車一車分の「チャビン」が到着し、荷馬車6、7台で桃中軒の倉庫に運んだといえます。桃中軒さんのお話で、この汽車土瓶は多治見から仕入れていたことがわかりました。

当館には、物流現場を撮影した10数万コマに及ぶ膨大な写真資料が保存されていますが、特に50年も昔の写真で、こういうことが起こることはめったにないことです。「馬力」の仕事については、その重要性にもかかわらず不明な点も多いのですが、今回は1枚の写真がきっかけとなって3人の方から貴重な証言を得ることができました。こうした過去の物流の証言を集めることも、当館の重要な仕事のひとつです。（当館学芸員・玉井幹司）



汽車土瓶（鞍前）須磨清氏蔵

2005年度の物流博物館をふり返って～業務日誌より～

4月 2,16日 古文書講座 10日 映画上映会 「映像で見る戦後日本の産業史」 16～22日 展示替の為 休館 23日～ 企画展「企業が写した昭和の風景」2012名（6月19日会期終了）	5月 14,28日 高輪伝馬の会 （古文書勉強会）	6月 11,25日 高輪伝馬の会 20～28日 展示替の為 休館	7月 3日 映画上映会 2,16日 高輪伝馬の会	8月 7日 映画上映会 10日 体験ツアー 18名 16～27日 学芸員 実習生2名受入 18,19日 美術品梱包講座 68名 20,27日 工作教室 130名 22日 ターミナル見学会 16名	9月 10,24日 高輪伝馬の会 11日 映画上映会
10月 8,22日 高輪伝馬の会 9日 映画上映会 22日 ごてんやまファミリーフェスタへ参加	11月 5,19日 高輪伝馬の会 13日 映画上映会	12月 3日 高輪伝馬の会 11日 映画上映会 のべ237名 18,19日 クリスマスサンタクロース映画会 51名	1月 14,28日 高輪伝馬の会	2月 1,6,8,13,15,20,27日, 3月1日 ロジスティクスセミナー のべ1019名 4,18日 高輪伝馬の会	3月 4,18日 古文書 講座のべ118名 4,18日 高輪伝馬の会 5,12,25日 産業映画試写会 25,26日 出前講座 「ふるしき入門講座」 江戸東京たてもの園にて 55名

昨年度の学校見学

2005年度の学校団体入館者データ

小学校：28校・1866名／中学校：25校・173名
 その他学校：9校・181名／学校計：62校・2220名
 2005年度全体入館者数：8447名

当館では、学校団体見学の場、ビデオ「物流ってなあに」の上映と、ワークシートなどを使った展示室見学及び、昔の運ぶ道具を担ぐ「運びくらべ」や「宅配便ドライバーに変身」などの体験を組み合わせ、見学スケジュールを構成しています。事前打ち合わせで先生方の要望をお聞きしながら、時間配分や利用するワークシートを決めています。2005年度の学校見学をふり返ってみると、説明を聞いたリワークシート等に記入したりといった学習の要素と、体験等体を動かすことをバランスよく組み合わせる学校がふえていると感じます。入館者数・学校数はともに前年度と比べてやや減少しましたが、毎年来館して下さる学校は定着しつつあり、こうしたリピーター率の高さがよりよい当館の活用につながっていると感じます。「現代の物流展示室ワークシート」はトラクター・ターミナルや港、空港といった物流ターミナルのジオラマ模型について、各ターミナルの説明を聞きながら空欄に書き込む形式のものですが、ある先生から、子供たちには説明を聞くことに集中させたいため、記入式ではなく、ジオラマの解説シートがほしいという要望をうけ、解説版を選択肢に加えました。物流の歴史展示室では、展示資料や模型を観察して気づいたことを記入する「歴史展示品カード」を3年前に作成しましたが、この展示品カードを利用する学校が毎年増えています。今後も子供たちの反応や先生方の声を反映させた、よりよい見学内容の充実を図っていきたく考えています。なお、歴史展示品カード・現代の物流ワークシートは当館ウェブサイトからダウンロードすることができます。

昨年度の一般的な見学スケジュール

	1組	2組
15分	ビデオ「物流ってなあに」を上映（2階）	
45分	現代の物流展示室 見学（地下1階） 体験：宅配便変身 キット	体験：運びくらべ （2階） 物流の歴史展示室 見学（1階）
45分	体験：運びくらべ （2階） 物流の歴史展示室 見学（1階）	現代の物流展示室 見学（地下1階） 体験：宅配便変身 キット
30分	昼食（2階）	

※このほかに環境問題との関連で「ふろしきでバッグをつくろう」プログラム（所要時間30分）を組み込む学校も増えてきました。



物流ターミナルのジオラマ模型（夜景）



左：宅配便変身
キット
右：運びくらべ
天秤棒担ぎ

ミュージアムグッズ



今年4月に物流博物館オリジナル絵ハガキを製作し、そのほか物流に関連する商品を仕入れてグッズの販売を始めました。

【販売商品】

オリジナル絵葉書8種、宅配カーパック（いちご味）、電車チョコ
 トミーテック：ザ・トラックコレクション 日通トラック（1/150スケール）、
 タイム：ミニチュアカーコレクション マツダT2000オート三輪（1/80スケール）
 ふろしき90cm幅、ふろしき50cm幅



物流博物館のご案内

物流博物館へのアクセス

カトリック高輪教会	新高輪 プリンスホテル	品川駅 高輪口
物流博物館 受付ナブル	新高輪プリンスホテル	品川駅 高輪口
ライオン高輪	ホテル/レゾナンス高輪	

高輪口
JR品川駅

- ◆電車：品川駅（JR・京浜東北線）下車・・・徒歩7分
高輪口駅（都営浅草線）下車・・・徒歩6分
- ◆バス：品川駅高輪口バス乗り場3番 都営バス 都93乗車（品川駅方面行）
新高輪プリンスホテル前 下車・・・徒歩1分

所在地 〒108-0074 東京都港区高輪 4-7-15 Tel 03-3280-1616 Fax 03-3280-4385 <http://www.imuse.or.jp> 開館時間 午前10時～午後5時
 休館日 毎週月曜日（但し月曜日が祝日・振替休日の場合はその翌日）、毎月第4火曜日、祝日の翌日（土日を除く）、年末年始
 入館料 小中学生：100円（土曜日無料、小学生は平日も無料）高校生以上：200円 ※学校関係の団体は入館料が免除になります。